



地域が一体となって シカ被害対策を推進

箕面森林ふれあい推進センターは、都市部に近接し、観光や野外活動などの森林レクリエーションで年間180万人が訪れる「明治の森 箕面自然休養林」に指定された箕面国有林の特徴を活かして、行政機関、教育機関、地域のNPO等と連携して里山再生と森林体験フィールドの整備・活用や、ESD※の視点を取り入れた森林環境教育、モニタリング調査に基づくシカ被害対策などに取り組んでいます。

シカ被害対策については、平成20年度頃までは保護の対象となっていたニホンジカが増加し、それに伴い下層植生の衰退や樹木の皮剥など、森林生態系への影響が顕著となったことから、行政機関やNPOなどの市民団体が構成する明治の森箕面自然休養林管理運営協議会（以下「協議会」という。）を組織し、地域が一体となってシカ被害対策に取り組むため、平成26年度に次の4つの取り組み方針からなる「シカによる食害防止計画」を策定しました。

※（Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育）

1 シカの食害から植生を守る 防護柵の設置

大切な植生を守るため緊急避難的対策 市民団体と実施



市民団体による設置



平成21年度に設置した柵内には植生が回復

2 個体数管理（捕獲）

シカの生息数をコントロール 箕面森林ふれあい推進センターが主体となって実施



足くくり罠の設置



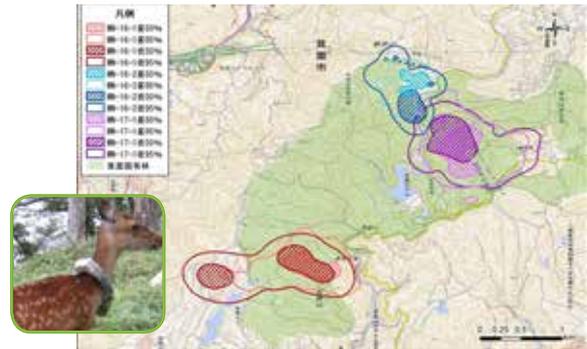
センサーカメラに写るシカ

3 モニタリング調査

シカの生息数を調査 研究機関、行政、市民団体が協力して実施



シカの生息数と植生の衰退の関係を調査



シカに GPS を装着して行動を調査
装着したシカの昼夜の利用行動圏図

4 市民への広報・啓発

市民団体とシカによる森林被害と対策について普及活動を実施



狩猟者育成の大阪ハンティングアカデミーで
森林の公益的な機能やシカ被害について講話



小学生の森林教室でシカ被害の現状と
対策を学習

箕面森林ふれあい推進センターは、国有林で培ってきた現場力や森林に関する知識、知見、国の機関という組織力を活かして、協議会の各種団体の取組に対する助言や技術の支援などを行うとともに、最も重要な役割である、「2 個体数管理」として捕獲事業を内閣府公益社団法人大阪府猟友会（以下「猟友会」）に委託して実施しています。

また、「3 モニタリング調査」では、センサーカメラによる効果的な捕獲方法の検証や、GPS テレメトリー調査※によるシカの行動特性調査を実施しており、得られた成果は毎年度、協議会や猟友会と情報を共有のうえシカ被害対策に取り組んでいます。なお、モニタリングの調査結果については、ホームページにも掲載しています。



協議会や猟友会との情報交換会

※ テレメトリー調査とは

野生獣に電波発信器を取り付け、その電波により野生獣の位置や行動圏を測定する調査方法

ニュース

「山の日記念」リラックスチェア作り 夏休み木工教室を開催

【和歌山森林管理署】

8月9日（木）、和歌山森林管理署会議室において、和歌山県西牟婁振興局林務課及びO F会（国有林退職者の会）の協力により夏休み木工教室を開催しました。

当日は真夏の暑い中、近隣の小学校5～6年生30名が参加しました。

この木工教室は、夏休みの思い出や宿題を兼ね、子どもたちに木に親しんでもらう目的で毎年開催し、今回で35回を迎えました。

今年は「リラックスチェア」づくりに挑戦し、スタッフのサポートを受けながら材料に墨入れを行い、ノコギリで板・角材を切っていました。上手に切れると笑顔がこぼれます。切った材料をドライバーや金槌を使い少しずつ組み立てていきました。



上手に切れていますよ

また、午後からの森林教室では、林業についての説明や木の葉の香りを感じたりして、木の



完成した「リラックスチェア」



林業についても学習しました

特徴を体感し、身近なところにたくさんの木材が使われていることを学びました。

途中、FM TANABE と和歌山放送のラジオの生中継があり、木工教室での子供たちの様子が署長のコメントとともに中継されました。その他、毎日新聞からも取材を受け、活動の様子が多方面に知ってもらえる機会となりました。



FM TANABE の取材に応じる署長

子供たちからは、「角材を切るのが難しかった」、「金槌で釘を真直ぐ打つのにコツがある」、「紙やすりで磨くとすべすべになる」、「優しく教えてもらって最高のリラックスチェアができた」、「学校の作品展に出品したい」などの感想が聞かれました。

和歌山森林管理署では、地域の子どもたちが木のことを知る機会を提供し、少しでも森林・林業に関心をもって理解を深めてもらうために、今後もこのイベントを継続していきたいと思います。

ブース出展でPR 第3回「山の日」記念全国大会

【鳥取森林管理署】

8月11日、第3回「山の日」記念全国大会が鳥取県大山町を主会場に開催され、歓迎フェスティバル「森の恵み感謝祭」に、鳥取森林管理署がブースを出展し、多くの来場者で賑わいました。



歓迎フェスティバルゲート

当署のブースでは、職員がそろいのハッピー姿で、森林官の業務及び大山国有林の治山事業の紹介による国有林野事業のPRや丸太切り体験などを行いました。

森林官業務の紹介では、パネルの展示と併せ、「子供なりきり森林官体験コーナー」を設けました。子供用の制服、帽子を着用し、輪尺で丸太の直径を測ったり、森林官車両に試乗し記念撮影をするなど、親子連れに楽しんでもらいました。



森林官の仕事内容について紹介

制服を着た子供達は、始めは緊張した面持ちでしたが、次第になれ笑顔で楽しんでいました。



森林官 バッチリ決っています!!



森林官車両の前でパチリ!!

治山事業のコーナーでは、当署が実施している大山国有林での事業を、パネルと大山国有林の新旧の空中写真により紹介しました。特に空中写真では、立体で見える大山の急峻さに驚きの声があがっていました。



鳥取県の国有林や大山の治山事業について紹介

丸太切りコーナーでは、親子連れを中心に盛況で、子供が奮闘して丸太を切る様子に声援を送りながら、盛んに撮影されていました。新聞社や、テレビ局の取材もあり、インタビューに応じた親子は、「一生懸命がんばった、楽しかった」と感想を述べていました。



丸太切りに挑戦中 ガンバレ～!!

また、谷合農林水産副大臣やみどりの女神も丸太切り体験に挑戦をしていただき、盛り上げにつながりました。



谷合農林水産副大臣とみどりの女神

当署のブースは絶え間なく来場者が有り、「山の日」記念全国大会を通じ、多くの人に国有林野事業のPRをすることが出来ました。



みどりの女神も丸太切りに挑戦

平成30年7月豪雨 荒廃山地の緊急対策 東広島市内の民有林 「国の直轄事業」で 応急対策

平成30年7月豪雨により、多数の山腹崩壊等が発生し、広島県東広島市などに甚大な被害を与えたことから、荒廃山地における緊急的な対策を行い、台風等に伴う次期降雨による二次災害の防止が必要となっています。

この度、林野庁では、広島県知事から災害関連緊急事業を含め国による早期の復旧整備を求められたことを踏まえ、東広島市内の民有林において国の直轄事業である「直轄治山災害関連緊急事業」に着手することとし、二次災害防止に向け、大型土のう設置などの応急対策工等を実施することとします。

* 民有林直轄治山事業施工予定区域

- ・ 東広島市八本松町
- ・ 東広島市黒瀬町
- ・ 東広島市高屋町

* 主な工事内容

- ・ 応急対策工
(大型土のう設置、堆積土砂撤去)
- ・ 復旧計画立案のための測量設計



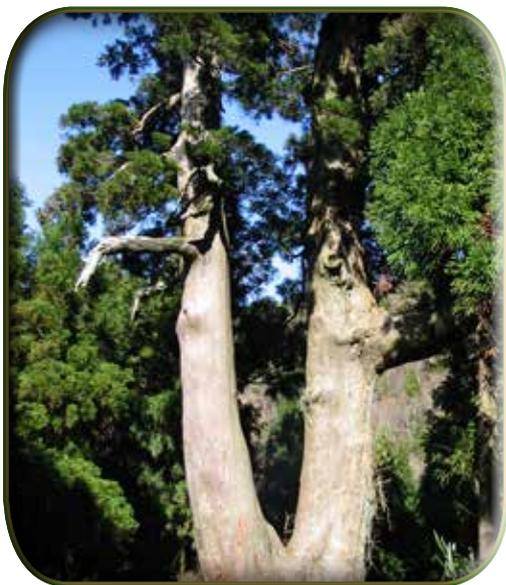
東広島市黒瀬町 (広島国際大学付近)

森の巨人たち百選 「桃木峠の大杉」観察会

【福井森林管理署】

8月11日（土）に、山の日を記念して森の巨人たち百選「桃木峠の大杉」観察会（主催：桃木峠の大杉保全協議会、共催：福井森林管理署、大野市阪谷公民館）を開催しました。

桃木峠の大杉は、大野市の経ヶ岳^{きょうがたけ}国有林に所在する樹齢400年以上と言われるスギの巨木です。また、今の福井市で生まれ白山を開山した泰澄^{たいしょうだいし}大師が、峠を通過する際に食事をし、食後に地面に突き刺した箸が成長して大杉になったという伝説があります。大野市指定天然記念物に指定されており、平成12年には森の巨人たち百選に選定されました。



桃木峠の大杉

当日は、大野市民10名の参加があり、「桃木峠の大杉保全協議会」の森会長と福井森林管理署の山口森林技術指導官の挨拶の後、バスで大杉へと向かいました。現地では、桃木峠の大杉に触れたり、周囲の自然観察、林業や木材に関するクイズで一時を楽しみました。

大杉の樹高測定では、超音波樹高計を用いて樹高を測定したところ、約30mという結果となりました。参加者は幹廻りが8mもある巨樹の迫力に圧倒されながらも笑顔で大杉に触れていました。



樹高測定体験



大きいね 大杉とのふれあい

参加者からは「自然が豊かで林業も盛んな大野市に住んでいても巨樹・巨木と触れ合う体験は滅多に無いので、大人も子供も楽しめました。」との声も聞かれ、こうした経験が4世紀以上も大野盆地を見守ってきた「桃木峠の大杉」の命を保護して後世へ引き継ぎたいという想いの醸成の一助となればと思いました。



大杉の説明

お知らせ

各地のイベント

各イベントの内容については近畿中国森林管理局のホームページをご覧ください。

または、それぞれのQRコードでご検索ください。

* 第9回「春日奥山古事の森」普及啓発イベント 参加者募集!!

今年のテーマは、「校倉^{あぜくら}の建築と木材」で、古代校倉の特殊な建築についての講演や校木^{あぜき}作り体験を行います。

- ・開催日時：平成30年10月23日（火曜日）
13時から16時30分
- ・場所：東大寺総合文化センター小ホール外
- ・参加費：1000円
- ・参加人数：講演は150名ですが、校木^{あぜき}作り体験は90名となります。
- ・申込み方法：応募要項によりメール、FAX、ハガキにて奈良森林管理事務所まで送付願います。
- ・申込み期限：平成30年9月28日（金曜日）
必着

※先着順に受付、定員になり次第締め切らせていただきます。



* 「広葉樹林はお宝になるか？～有効活用の可能性を探る～」公開講演会

- ・開催日時：平成30年10月19日（金曜日）
13時00分～16時30分
（開場12時00分）
- ・場所：龍谷大学響都ホール校友会館（JR京都駅八条口前アバンティビル9F）
- ・参加費：無料
- ・申込み方法：事前に電話・ファックス・Eメールでお申込みください。
- ・申込み期限：平成30年10月10日



* 「伽藍西塔」及び「高野山古事の森」見学会 参加者募集!!

伝統的木造建築物の「伽藍西塔」と「高野山古事の森」の見学会を企画しました。



- ・開催日時：平成30年11月10日（土曜日）
10時30分から13時まで
- ・集合場所：高野山「霊木の家」
- ・見学場所：「伽藍西塔」及び「高野山古事の森」
- ・参加費：無料
- ・参加人数：20名程度（先着順）
- ・申込み方法：申込書に必要事項を記載の上和歌山森林管理署「古事の森見学会」係まで
- ・申込み期限：平成30年11月5日（月曜日）

* 「地域管理経営計画等に関する有識者懇談会」の委員を募集!!

国有林野の管理経営を実施するに当たり、有識者懇談会の委員を募集します。未来の森林づくりに携わってみたいと思われる方は、是非ご応募いただき、あなたのご意見をお聞かせください。

- ・募集期間：9月中旬から10月中旬
- ・募集人員：1名
- ・その他：応募要件等についての詳細は、近畿中国森林管理局ホームページをご覧ください。



森林のギャラリー（局庁舎1階）

9/3～10/19
大阪の木づかい&木育展

本企画展では、10月の木づかい推進月間に先がけ、近畿圏で国産材住宅を多く手がける「NPO 法人国産材住宅推進協会」の取組紹介や木工作品展など、木づかいや木育に関する展示を行っています。

シリーズ 『国有林 最前線！』

保全課 シカ被害対策 ～捕獲等の推進～

近年、野生鳥獣による森林被害面積は減少傾向にあるものの、シカの生息数の増加及び生息域の拡大により、森林の被害は依然として深刻な状況にあります。平成28年度の野生鳥獣による森林被害面積は全国で約7千haあり、このうち、シカによる被害は8割を占め、近畿中国森林管理局管内の国有林においても苗木の食害や下層植生の衰退等が発生し、このまま下層植生が無くなると土壌流出のほか、土砂災害等のリスクが高まるということが危惧されます。

この森林・林業の深刻な被害を防止するためには、地域と一体となったシカ被害対策の推進が重要であることから、糞塊密度調査、自動撮影カメラ、GPSテレメトリーによる生息状況等のモニタリング調査を実施するとともに、得られたデータについては地域と共有を図り、効果的なシカ被害対策に取り組んでいます。

シカの捕獲においては、罠の設置に特別な技術を要せず、クマの錯誤捕獲が極めて少なく、雌シカを選択的に捕獲できる首用くくり罠の使用によるデータの収集や、職員がシカが餌を食べる時の足の位置に着目し、従来の足くくり罠の設置方法等を工夫した小林式くくり罠（小林式誘引捕獲）を使用した簡易で効率的な捕獲を推進しています。

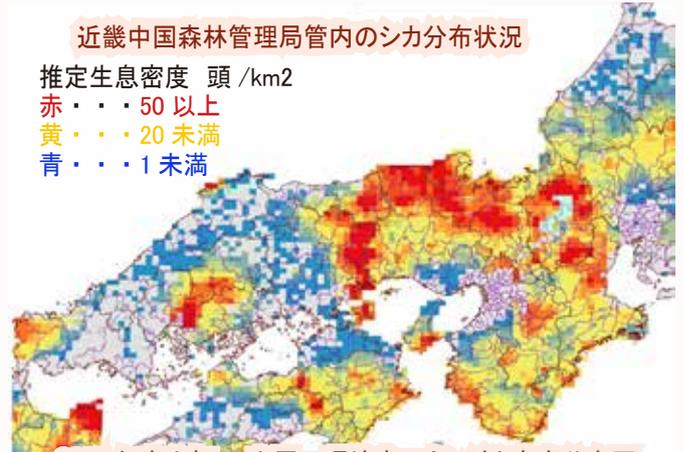
近畿中国森林管理局管内のシカ分布状況

推定生息密度 頭 /km²

赤・・・50以上

黄・・・20未満

青・・・1未満



2014年度当初 出展：環境省ニホンジカ密度分布図

滋賀森林管理署 八幡森林事務所 森林官 大栢あすか

八幡森林事務所は、滋賀県の近江八幡市、野洲市、竜王町、東近江市、甲賀市を管轄区域としており、国有林野8団地約2,000haと官行造林地2団地132haを管轄しています。その中には、なだらかな稜線が美しい三上山（近江富士）、戦後干拓され陸地続きとなりましたが、かつて琵琶湖最大の島だった奥島山など、人々を魅了し、歴史・文化を育んできた山が多くあります。

このうち近江八幡市にある伊崎国有林57haは、約1100年前から続く「伊崎の棹飛び」で知られる伊崎寺の参道があり、琵琶湖に面した風光明媚な景観と相まって琵琶湖国定公園に指定されています。

また、伊崎国有林では昭和63年頃からカワウの生息数が急増し、ピーク時には1万6千羽近くを数え、琵琶湖北部の竹生島に次ぐ日本で2番目に大規模なコロニーとなりました。その結果、樹木が枯れたり下層植生が衰退する被害が発生し、平成15年までに約11haに及び樹木が枯死しました。その後、学識経験者、地元関係者及び職員からなるワーキンググループを立ち上げその意見を聴きつつ、カワウと共生できる森林づくりをめざし、滋賀県が行うカワウ捕獲に協力するとともに、定期的な森林調査を行いながら、枯損木の伐採や郷土樹種の植栽及び育成等を実施し、植生の回復に取り組んでいます。

